

23:44 そのときすでに十二時ごろになっていたが、全地が暗くなって、三時まで続いた。

23:45 太陽は光を失っていた。また、神殿の幕は真二つに裂けた。

23:46 イエスは大声で叫んで、言われた。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。

23:47 この出来事を見た百人隊長は、神をほめたたえ、「ほんとうに、この人は正しい方であった。」と言った。

23:48 また、この光景を見に集まっていた群衆もみな、こういういろいろの出来事を見たので、胸をたたいて悲しみながら帰った。

23:49 しかし、イエスの知人たちと、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちとはみな、遠く離れて立ち、これらのことを見ていた。

23:50 さてここに、ヨセフという、議員のひとりで、りっぱな、正しい人がいた。

23:51 この人は議員たちの計画や行動には同意しなかった。彼は、アリマタヤというユダヤ人の町の人で、神の国を待ち望んでいた。

23:52 この人が、ピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願った。

23:53 それから、イエスを取り降ろして、亜麻布で包み、そして、まだだれをも葬ったことのない、岩に掘られた墓にイエスを納めた。

23:54 この日は準備の日で、もう安息日が始まるようとしていた。

23:55 ガリラヤからイエスといっしょに出て来た女たちは、ヨセフについて行って、墓と、イエスのからだの納められる様子を見届けた。

23:56 そして、戻って来て、香料と香油を用

意した。安息日には、戒めに従って、休んだが、

神殿の幕は神様の聖と人間の罪とを隔てるものでしたが、その断絶がなくなったことを意味します。もちろんイエス様の十字架によって、人の罪が赦され、神に受け入れられるものとなるからです。もはや私たちと神様とを隔てるものはないのです。大胆に恵の御座に近づきましょう。

イエス様を十字架につけた者がいた反面、イエス様の死を悲しみ悼んだ人もいました。信仰はその人の内面によるのです。私たちは世の中がイエス様を否定しても、あくまでも信仰を持ち続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

